

令和7年度「彩の国教育の日」協賛 第46回大里地方教育推進協議会が、令和7年11月11日(火)午後2時から深谷市花園文化会館アドニスにて、現職校長41名、退職校長61名、計102名の参加のもとに開催されました。

ご来賓として、寄居町長 峯岸 克明様、寄居町教育委員会教育長 関根 光男様、埼玉県退職校長会会長 新井 俊一様、指導者として埼玉県教育局北部教育事務所長 斎藤 直美様のご臨席をいただきました。

開会行事では、寄居町長 峯岸克明様から祝辞と教育を通した子どもたちへのメッセージとして「これからの世の中は確実に良くなり明るいものになる」と長いスパンで捉えた見方や考え方を伝えてほしいこと、教育長 関根光男様からは寄居町の教育への取り組みについて成果や課題を、会長の新井俊一様からは、本日渋沢栄一翁の命日にあたり、ゆかりの人が青森の地で著した「吸収・提案・結合」という言葉を紹介し、まさに本日の教育推進協議会はこの理念に沿うものであることなど、多くの示唆に富むご挨拶をいただきました。

研究協議1は、熊谷市立大幡小学校の松原由郎先生の「笑顔で いっぱいの 学校づくり」をテーマに、児童の笑顔のために「できた！わかった！」「生活経験を豊かに」「基礎基本を身につける」「多くの人とつながる」ことを、また安心できる学校を作るために職員の笑顔も大切にし「ワークライフバランス」「余裕をもって授業へ」等の視点を重視し、地域とともに取り組んでいる様子を発表しました。

研究協議2では、退職校長会を代表して寄居班の奥^{ただし}先生が「貢献寿命を伸ばそう ～地域とのつながりを通して～」というテーマで発表されました。まだ馴染みの薄い「貢献寿命」の定義を説明した後、部活動指導員や公民館長として地域への貢献活動を意欲的に取り組んでいる様子を貴重な映像とともに発表しました。さらに地域の二つの小学校が統合するにあたり、準備委員会の委員長として地域の声を丁寧に聞きながら町当局と円滑に協議を進めてきたこと、そしていよいよ着工という段階であることなどが紹介されました。定年後13年目とは思えないエネルギーな取り組みに皆感心していました。

最後に埼玉県教育局北部教育事務所長の斎藤直美先生による指導講評で、松原先生の発表に関しては県の学力調査のデータをもとに着実に成果が出ていること、奥先生の発表については現職の先生方にとっても参考になる生き方で、改めて貢献寿命について考える機会になったこと、そして二つの発表とも県の新5カ年計画の施策と繋がっていること等のお話をいただきました。また、次期学習指導要領の論点整理について「義務教育段階の柔軟な教育課程の方向性」についてご指導をいただきました。

